感染症発生動向調査

平成23年第29週 (7月18日~7月24日)

京都市感染症週報

http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/soshiki/8-5-5-0-0 3.html

京都市感染症情報センター (京都市衛生環境研究所)

◆ 今週のコメント

- ・ レジオネラ症(肺炎型)の報告が、1例あります。40歳代男性で、感染経路は不明です。
- ウイルス性肝炎(B型)の報告が、1例あります。20歳代男性で、感染経路は不明です。
- ・ **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**の報告が、1例あります。30歳代男性で、推定感染経路は、飛沫・飛沫核感染です。平成11年4月以降、14例の報告があり、年齢階級別では、10歳未満1例、30歳代3例、50歳代2例、60歳代3例、70歳代4例、80歳代が1例となっています。推定感染経路は、外傷2例、飛沫・飛沫核感染1例、その他3例、不明8例となっています。
- ・ **咽頭結膜熱**の定点当たり報告数は、0.63(25例)で、前週(0.85)に比べ減少ていますが、依然として 過去5年平均値を上回る状態が続いています。例年6月~8月は、報告数が多くなっていますので、動 向にご注意ください。

◆ 今週のトピックス: <手足口病>

手足口病の定点当たり報告数は、9.70(388例)で、先週に比べ減少していますが、依然として、例年に比べ、かなり報告数が多くなっていますので、動向にご注意ください。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

(性別,年齢,症状,推定感染地域,推定感染経路の順に掲載。ただし,結核は除く。)

- ・二類: 結核 1例(肺結核 なし, 肺外結核 なし, 潜在性結核感染者 1例), (喀痰塗抹陽性 なし) 【1月以降の累積報告数 267例(肺結核 130例, 肺外結核 47例, 潜在性結核感染者 90例), (喀痰塗抹陽性 61例)】
- ・四類:レジオネラ症(肺炎型)1例【1月以降の累積報告数7例】
- ・五類: ウイルス性肝炎(B型) 1例(第28週分)【1月以降の累積報告数2例】
- ・五類:劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 3例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点67, 小児科定点40, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンサ゛	インフルエンザ	0.04	3
小児科	① 手足口病	9. 70	388
(降順5位まで)	② ヘルパンギーナ	2. 20	88
	③ 感染性胃腸炎	2. 08	83
	④ 咽頭結膜熱	0. 63	25
	⑤ 水痘	0. 48	19
眼科	流行性角結膜炎	0. 60	6

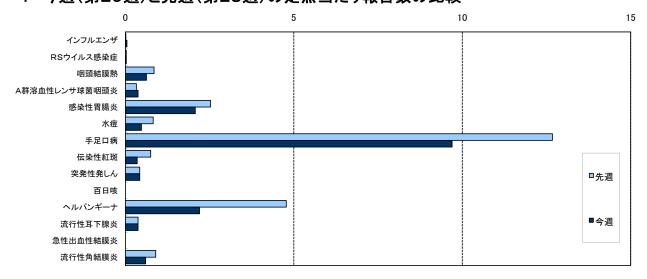
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:<手足口病>

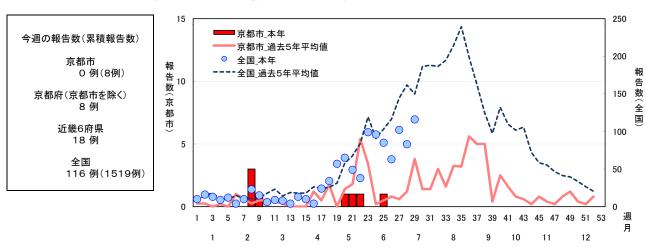
(注)京都市のデータは、平成23年7月28日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。 また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

◆ 発生状況の概況グラフ

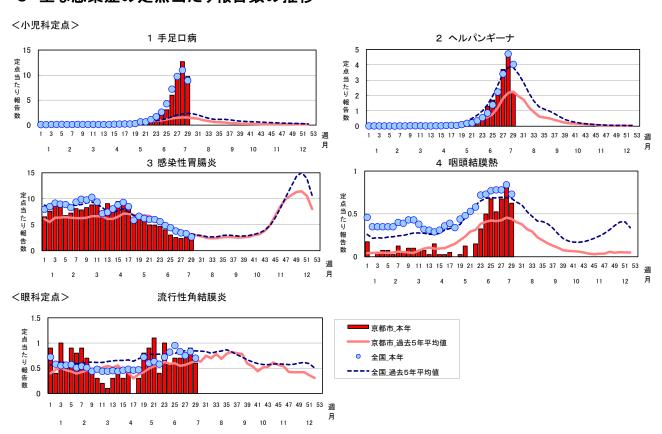
1 今週(第29週)と先週(第28週)の定点当たり報告数の比較



2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移



3 主な感染症の定点当たり報告数の推移



第29週(7月18日~7月24日)トピックス: <手足口病>

手足口病の定点当たり報告数は, 9.70(388例)で, 先週に比べ減少していますが, 依然として, 例年に比べ, かなり報告数が多くなっていますので, 動向にご注意ください。

年齢階級別では、1歳が119例(30.7%)と最も多く、以下、2歳66例(17.0%)、0歳55例(14.2%)となっており、0歳~4歳で82.2%を占めています。また、通常、成人では手足口病の発症頻度は高くないとされてますが、第24週以降、20歳以上の報告が続いており、第29週は7例(1.8%)となっています。子供から親への家族内感染事例の報告(*)もありますので、成人での感染にも注意が必要です。

都道府県別定点当たり報告数をみると,西日本では,ほぼすべての府県で減少していますが,これまで,比較的に報告数の少なかった東日本では,増加しています。

(*) <速報>コクサッキーウイルスA6型による手足口病の成人例―大阪府 (IASR病原微生物検出情報/国立感染症研究所感染症情報センター) http://idsc.nih.go.jp/iasr/rapid/pr3786.html

流行年及び過去5年平均の定点当たり報告数の推移

